

長尾直茂先生ご講演要旨

延徳版『大学章句』と『漢学紀源』

薩摩の人伊地知季安（一七八二～一八六七）は、薩南道学伝ともいべき著作『漢学紀源』の中で、文明十三年六月に鹿児島地で刊行された『大学章句』について、「本邦章句印行の嚆矢」であると誇らしげに記している。薩南学派の礎を築いた禅僧桂菴玄樹（一四二七～一五〇八）の周旋に係る同書の刊行は、季安が標榜する通り、日本における最も早い朱熹新注の上梓であり、本邦朱子学受容史上の壮挙として記憶さるべきことであった。しかしながら、残念なことに今や同書の伝存は確認できず、その版式等はこののち延徳四年十月に、やはり桂菴の尽力によって刊行された延徳版『大学章句』によって推し量るよりほかない。そこで今回はおもに『漢学紀源』の記述を手がかりとしながら、この延徳版を話柄としてみたいと思う。